

2026年度第1回(39回) 日本プロセス化学会東四国地区フォーラムセミナー プログラムおよびポスター要旨集

日 時:2026年6月27日 (土)

会 場:徳島大学薬学部 (蔵本キャンパス) 長井記念ホール

講 演:14時～16時15分

1. 笹岡 三千雄 先生 ((株) ラベニール3000)

「仕事をするとは？」

— これから世の中に出て行く皆さんへ —

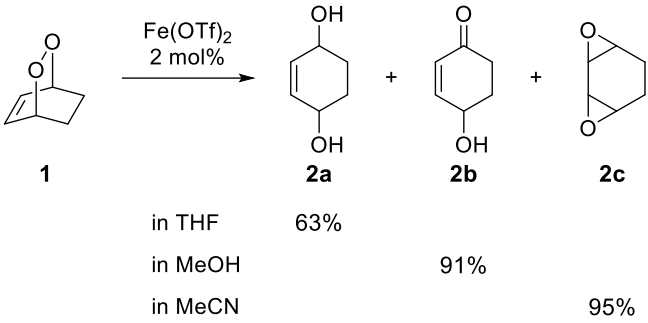
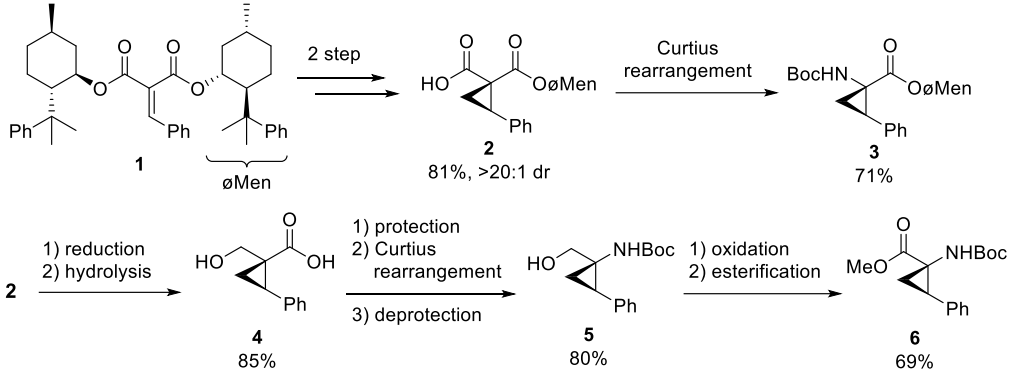
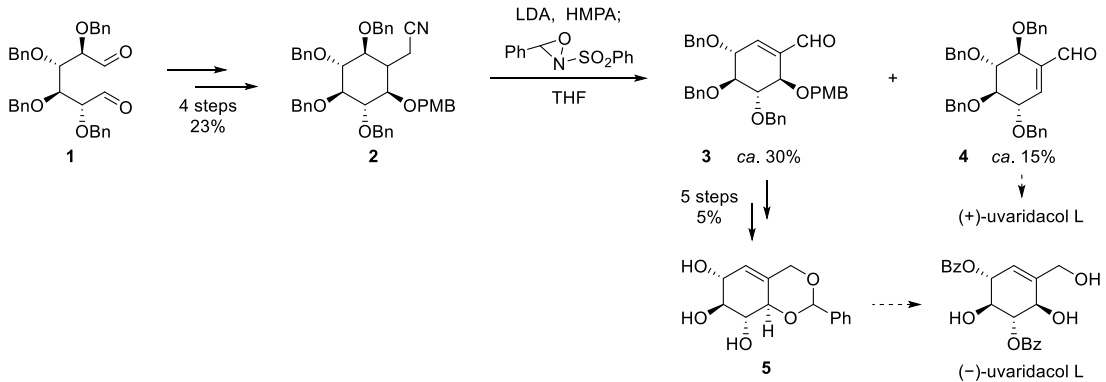
座長 大江 匡彦 (シオノギファーマ)

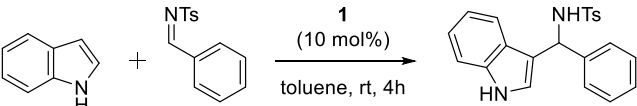
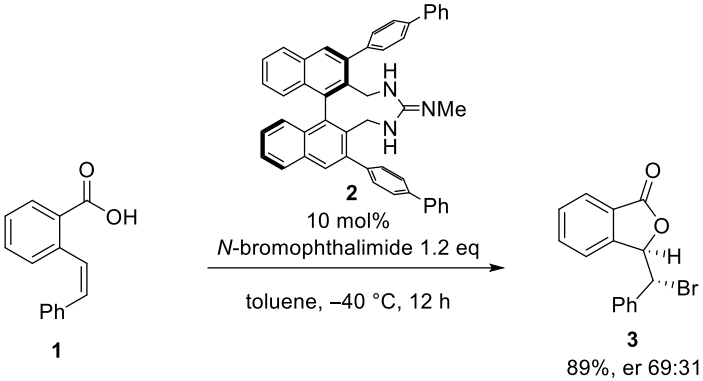
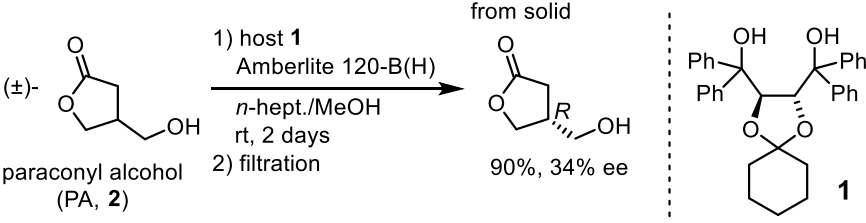
2. 中村 達 先生 (東北大学高教機構・東北大院理 教授)

「触媒的骨格転位反応の新展開」

座長 山田 健一 (徳島大学)

ポスター発表:16時30分～18時 プログラムおよび要旨は裏面等に記載

ポスター番号	要 旨
1	二価鉄を用いる対称環状ペルオキシド開裂反応における溶媒効果 (徳島大薬¹, 徳島大院薬²) ○梅津 悠莉¹, 黒木 航太², 明野 純也², 猪熊 翼², 山田 健一² THF 中でペルオキシド 1 に二価鉄を作用させたところ Fenton 反応が進行し、ジオール 2a が 63% 収率で得られた。ところがメタノールあるいはアセトニトリルを溶媒に用いると、ケトアルコール 2b あるいはジエポキシド 2c がそれぞれ 91%、95% 収率で得られた。 
2	ビスフェニルメンチルアルキリデンマロネートを用いるシクロプロパンアミノ酸のジアステレオ及びエナントチオ選択的合成法の開発 (徳島大薬¹, 徳島大院薬²) ○高橋 昇吾¹, 外原 新也², 猪熊 翼², 山田 健一² キラル Michael 受容体 1 より得られるカルボン酸 2 の Curtius 転位により <i>E</i>-アミノ酸 3 を得た。一方、2 のカルボキシ基を還元・保護した後、Curtius 転位、続くカルボキシ基の再生により、<i>Z</i>-アミノ酸 6 の合成に成功した。 
3	ジアルドースの非対称化を鍵工程とする(+)-および(-)-Uvaridacol L の分岐型合成研究 (徳島大薬¹, 徳島大院薬²) 高原 悠生², 西川 弘修¹, ○津嘉山 凜¹, 猪熊 翼², 山田 健一² C₂ 対称ジアルドース 1 から 4 工程で得られるニトリル 2 の α 位を酸化したところ、擬エナントオマーである α,β-不飽和アルデヒド 3 と 4 が少量の不純物とともにそれぞれおよそ 30% および 15% 収率で得られた。分離した 3 と 4 から (-)-および (+)-Uvaridacol L への変換を検討中である。 

ポスター 番号	要 旨						
4	インドールとイミンの Friedel–Crafts 反応を用いた BINOL 6 位置換キラルリン酸触媒の性能比較 (徳島大薬¹, 徳島大院薬²) ○新谷 祥生¹, 中村 翔哉², 青崎 春菜², 猪熊 翼², 山田 健一² キラルリン酸触媒と担体をつなぐリンカーが反応に与える影響を調べるため、BINOL 6 位にアルキル基あるいはアミド基が置換したキラルリン酸触媒 1a、1b を合成し、Friedel–Crafts 反応における触媒性能を 6 位に置換基を持たない 1c と比較した。  <table border="1" data-bbox="1149 682 1502 756"> <tr> <td>1a: R = CONHBu</td> <td>86 %, 68 %ee</td> </tr> <tr> <td>1b: R = (CH₂)₂CONHEt</td> <td>89 %, 75 %ee</td> </tr> <tr> <td>1c: R = H</td> <td>69 %, 73 %ee</td> </tr> </table>	1a : R = CONHBu	86 %, 68 %ee	1b : R = (CH ₂) ₂ CONHEt	89 %, 75 %ee	1c : R = H	69 %, 73 %ee
1a : R = CONHBu	86 %, 68 %ee						
1b : R = (CH ₂) ₂ CONHEt	89 %, 75 %ee						
1c : R = H	69 %, 73 %ee						
5	キラルグアニジンを用いる (<i>Z</i>)-スチルベンカルボン酸の不斉ブロモラクトン化 (徳島大薬¹, 徳島大院薬²) 菅野 正幸², ○望月 若菜¹, 藤原 達也², 猪熊 翼², 山田 健一² (<i>Z</i>)-スチルベンカルボン酸 (1) とキラルグアニジン 2 のトルエン溶液に <i>N</i>-bromophthalimide を -40°C で加えて 12 時間攪拌したところ 5-<i>exo</i> 環化が優先的に進行してベンゾフラノン 3 が 89% 収率、エナンチオマー比 69:31 で得られた。 						
6	連続アシル置換反応を利用したパラコニルアルコール誘導体のデラセミ化 (徳島文理大薬) ○古川愛梨, 北村 圭, 加来裕人 連続アシル置換反応の平衡条件下, 光学活性ホスト分子 1 の作る不斉結晶場を利用して, 光学活性パラコニルアルコール (PA, 2) への変換法を開発した. その結果, (<i>R</i>)-PA を収率 90% で得た. 本手法の一般性を確かめる目的で α-メチレン体にも適用し, 抗真菌活性天然物セダルマイシン B を全 5 段階, 総収率 33% で合成した. 						

発行者: 日本プロセス化学会東四国地区フォーラム
代表幹事 穴戸 宏造
問合先: 770-8514 徳島市山城町西浜傍示180
徳島文理大学薬学部 加来 裕人
TEL(088)602-8452 FAX(088)655-3051
e-mail: kaku@ph.bunri-u.ac.jp